

景気動向調査

期間：2025年4月～6月 作成：川西市商工会

【小規模企業景気動向調査】（令和7年5月期調査 全国商工会連合会 6月27日発表分 参照）

<産 業 全 体>

◇…物価高に苦しみ廃業懸念が強まる中、支援を求める声が広がる小規模企業景況…◇

5月期の産業全体の景況は、売上額DIがわずかに低下し、採算・資金繰り・業況DIはわずかに上昇した。売上額DI以外は緩やかな回復を見せたが、前年ベースではマイナスで推移しており、回復基調にはなお時間を要する。物価高騰をはじめとする経営上の課題により、廃業検討の声も多くあることから、国や自治体による抜本的な小規模企業支援を求める。

<製 造 業>

◇…外部環境に対する不安と挑戦が交錯する製造業…◇

製造業は、売上額DIが小幅に上昇、採算・資金繰りDIはわずかに上昇し、業況DIは不変であった。食料品関連は、依然として原材料費やエネルギーコスト高に苦しむ声が多い。繊維関連は、季節要因により受注が伸び悩み、売上や採算が悪化した。機械・金属関連は、前月比での改善は見られたが、関税政策による先行き不安の声は続いている。一方で、一部事業所では新分野進出に取り組むなど、前向きな姿勢も確認された。

<建 設 業>

◇…前年同月からは改善が見られるも、依然として人材確保が急務な建設業…◇

建設業は、売上額がわずかに低下、資金繰り・業況DIはわずかに上昇し、採算DIは不変であった。前年同月比では、全てのDIが上昇。コロナ禍の影響が落ち着いたことによる受注件数の増加が一部で報告されたが、慢性的な人手不足に伴い外注への依存度が高まり、採算が取れない状況が続いている。廃業する事業所も散見される中、企業存続の為、人材確保や育成等の取り組みが急がれる。

<小 売 業>

◇…全業種のうち、唯一全DI がマイナス値となった小売業…◇

小売業は、売上額DIが小幅に低下、資金繰り・業況DIはわずかに上昇し、採算DIは不変であった。衣料品関連・食料品関連ともに物価高騰による買い控えの影響が目立つ結果となった。特に衣料品関連は、売上高DIが前年同月比で約10ポイント低下、食料品関連は米の不足や高騰の影響に関する声も多く、前月からマイナス推移となった。耐久消費財関連は、仕入価格の上昇に対し価格転嫁が進まず、採算に影響があるとの声も聞かれた。

<サービ業>

◇…業種間格差と、地方の苦戦が続くサービス業…◇

サービス業は、売上額DIがわずかに低下、採算DIは小幅に上昇し、資金繰り・業況DIは不変であった。売上額について、業界としては前年ベースで大幅に低下したが、旅館関連の売上にけん引され、5月DIとしてはプラスを維持。クリーニング関連は、仕入や水道・電気料金高騰の影響から、肯定的な声は少ない。理・美容関連は、引き続き地方での人口や利用頻度の減少から、売上が伸び悩んでおり、廃業を検討する事業所も多い。

産業全体					製造業					建設業				
DI	4月	5月	前月比	前年 同月比	DI	4月	5月	前月比	前年 同月比	DI	4月	5月	前月比	前年 同月比
売上額	3.6	2.9	▲ 0.7	▲ 2.0	売上額	2.7	4.8	2.1	▲ 3.5	売上額	7.0	5.5	▲ 1.5	8.1
採算	▲ 20.2	▲ 19.2	1.0	▲ 2.0	採算	▲ 23.7	▲ 21.8	1.9	▲ 5.7	採算	▲ 16.9	▲ 17.1	▲ 0.2	4.8
資金繰り	▲ 16.8	▲ 15.7	1.1	▲ 1.0	資金繰り	▲ 17.9	▲ 16.2	1.7	0.4	資金繰り	▲ 17.1	▲ 15.6	1.5	2.8
業況	▲ 17.5	▲ 16.8	0.7	▲ 4.9	業況	▲ 21.4	▲ 21.8	▲ 0.4	▲ 8.5	業況	▲ 14.9	▲ 13.7	1.2	2.1

小売業					サービス業				
DI	4月	5月	前月比	前年 同月比	DI	4月	5月	前月比	前年 同月比
売上額	0.0	▲ 2.3	▲ 2.3	▲ 1.7	売上額	5.0	3.3	▲ 1.7	▲ 11.1
採算	▲ 25.6	▲ 25.7	▲ 0.1	▲ 3.5	採算	▲ 14.7	▲ 12.5	2.2	▲ 3.7
資金繰り	▲ 21.1	▲ 20.4	0.7	▲ 2.1	資金繰り	▲ 11.0	▲ 10.6	0.4	▲ 5.1
業況	▲ 24.7	▲ 22.8	1.9	▲ 5.4	業況	▲ 9.1	▲ 8.8	0.3	▲ 7.9

【兵庫県内企業動向調査】

●兵庫県の経済・雇用情勢（県 地域経済課 6月18日発表分）

本県の経済・雇用情勢は、一部に弱めの動きがみられるものの、緩やかに回復している。

景況等…企業の業況判断は、コロナ禍以降のピーク圏内で推移している。先行きは慎重な見方となっている。

需要…個人消費は、物価上昇の影響を受けつつも、緩やかに回復している。

輸出は、横ばい圏内の動きとなっている。設備投資は、増加計画にある。

生産…生産は、横ばい圏内で推移している。

雇用…雇用・所得環境は、緩やかに改善している。

金融…倒産件数は、おおむね横ばいとなっている。

●県内景気の現状についての日本銀行神戸支店のコメント（6月10日発表分）

管内の景気は、一部に弱めの動きがみられるものの、緩やかに回復している。

個人消費は、物価上昇の影響を受けつつも、緩やかに回復している。設備投資は、増加している。住宅投資は、弱めの動きとなっている。公共投資は、緩やかに増加している。輸出は、横ばい圏内の動きとなっている。

こうした中、生産は、横ばい圏内の動きとなっている。雇用・所得環境は、緩やかに改善している。消費者物価（除く生鮮食品）は、前年を上回って推移している。

① 景況

現状（良い－悪い）構成比（%ポイント）

区分	R6.6	R6.9	R6.12	R7.3	R7.6(予測)
全産業	15	14	13	12	5
大企業	16	17	17	19	15
中堅企業	17	14	12	9	6
中小企業	14	13	11	10	0
うち製造業	9	5	7	7	▲ 1
うち非製造業	23	25	19	19	13

出所：県内企業短期経済観測調査（日本銀行神戸支店）

【川西市の経済動向等について（中小企業景況調査）】

※経営指導員による巡回時のヒアリングから見える川西市内の動向（6月）について

市内動向

市内の6月の景気は、全般としては緩やかな回復基調が見られた。梅雨明けが例年より早く、真夏日が続いたこともあり季節需要が前倒しとなった業種もあった。原材料・仕入価格は上昇に加えて光熱費や人件費の高騰が、収益状況の悪化につながっていると回答した事業所がほとんどであった。

7月以降については、原材料・仕入単価の更なる上昇が見込まれ、景況感は全業種で不変もしくは悪化と回答した事業所が多くあった。

製造業

製造業では、取引先の影響により売上が悪化した事業所もみられたが、全体的としては緩やかな回復傾向が伺えた。また、資金繰りについては、売掛金回収期間を短くするなどやや好転とした事業所が多かった。一方で、原材料価格や光熱費、人件費などの経費が増え、利益の減少となっており、今後もこの状況が続くことが見込まれ、生産性の向上及び価格転嫁が重点的経営背景であると回答した事業所がほとんどであった。

建設業

建設業全般では、住宅新築の着工減少を受け、住宅リフォーム全般に需要は微増傾向であった。また、土木分野においては、公共工事の受注が一定の支えとなり、微増傾向で推移した。一方、塗装関連では、横ばいで推移し目立った変化は見られなかった。

猛暑による熱中症対策が必要となり工程管理の見直しや対策経費も発生し、事業運営に負担が生じた。これらを総合的にみると、景況感はややマイナス成長となり、前回調査で「横ばい」から一転し厳しい結果となった。

7月以降についても、景気が好転する兆しが見受けられず、厳しい経営状況が続くと見込まれている。

小売・サービス業

例年より平均気温が高くなった影響で、屋外イベントの集客が伸び悩み、規模縮小などによる影響を受けた事業所も見られました。一方で、エアコン関連商品や冷感衣料、清涼飲料など「涼」を求める消費が活発となり、これらを取り扱う事業所では売上が好調に推移した。結果として多くの事業所で売上が回復傾向を示した。

7月以降については、売上は回復基調にあるものの、原材料や光熱費の高騰及び人件費が増えることにより収益状況はやや悪化すると予想している事業所が半数以上いた。再三、価格転嫁をすることも難しく厳しい経営判断を強いられている。